

※農水省所管事業

資料4(別添様式)

番号	2	令和2年度公共事業事後評価調書			担当課名[農地整備課]	
事業名	かんがい排水事業(一般型)			事業主体	静岡県	
箇所名	寺谷上流 <small>てらたにじょうりゅう</small>			市町名	磐田市	
事業概要						
事業の目的・必要性	<p>一級河川天竜川左岸に位置する磐田市西部の水田地帯を受益とする本地区は、国営天竜川下流用水(S42～S60)や県営天竜川下流地区(S45～H8)の実施により、基幹的な農業用水施設が整備されたが、末端水路はS40年代に整備した用排兼用の開水路であることから、不安定な用水管理に加え、老朽化に伴う漏水等による慢性的な用水不足から、計画的な水管理に支障を来していた。</p> <p>このため、開水路をパイプライン化することで、用水不足を解消し、安定的な農業用水が確保されたことで、計画的な水管理が可能となり、営農の合理化が図られた。</p>					
受益面積	186.8ha	採択年度	平成8年度	完了年度	当初	平成21年度
					実績	平成26年度
事業量	用水路工 延長55,980m					
施設の利用状況や被害軽減効果等						
前回	事業費 3,300百万円	事業期間 平成8年度～平成26年度	施設の利用状況や被害軽減効果等		B/C : 1.01 EIRR : -	
事後	事業費 3,575百万円	事業期間 平成8年度～平成26年度	施設の利用状況や被害軽減効果等		作物生産効果、営農経費節減効果 年総効果額：127,438千円	
差	事業費 275百万円増 (8.3%増)	事業期間 計画どおり	施設の利用状況や被害軽減効果等		作物生産効果：30,942千円 営農経費節減効果：10,076千円 年総効果額：41,018千円(32.2%増)	
<p>○事業費<事業費増高の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 農業用水の配水等の水管理や土砂排除など維持管理労力の軽減し、認定農業者等への農地集積の加速化を図るため、開水路のパイプライン化を地区上流部から地区全体へ拡大した。 <p>○施設の利用状況や被害軽減効果等</p> <ul style="list-style-type: none"> 開水路をパイプライン化することで、S40年代に整備した開水路の老朽化に伴う漏水等による慢性的な用水不足を解消し、安定的な農業用水が確保されるとともに、計画的な水管理が可能となるほか、水路内土砂排除などの維持管理の節減が図られた。 単収および単価の変動による増による。 						
事業の効果の発現状況						
<p><食料の安定供給の確保に関する効果></p> <ul style="list-style-type: none"> 作物生産効果 用水路整備に伴う、水管理改良および干害防止、湿潤かんがいによる増収 水 稲：事業実施なし 488kg/10a ⇒ 事業実施後 510kg/10a (5%増) ね ぎ：事業実施なし 1,887kg/10a ⇒ 事業実施後 2,132kg/10a (12%増) 営農経費節減効果 用水管理に伴う、営農経費の節減 水 稲：事業実施なし 120.0時間/ha ⇒ 事業実施後 27.3時間/ha (77%減) ね ぎ：事業実施なし 134.7時間/ha ⇒ 事業実施後 109.6.0時間/ha (23%減) 						
事業により整備された施設の管理状況						
<ul style="list-style-type: none"> 造成された用水路は、寺谷用水土地改良区により適切に維持管理されている。 ふじのくに美農里プロジェクト活動組織である「岩田故郷の会」が草刈りや簡単な補修・修繕を行っており、適切な維持管理を行っている。 						

事業実施による環境の変化

- (1) 農業生産力の強化について
- ・ 用水路の整備により、用水不足の解消と計画的な水管理が可能となり、水稻の生産性が向上するとともに、ネギや高級食材である海老芋等が栽培され、多様な作物による営農が広がっている。
 - ・ 用水路からパイプラインに整備され、用水管理労力が軽減したことから、経営体の規模拡大が可能となり、「土屋ライス」をはじめ5名(97.1ha)の大規模経営体が育成された。
 - ・ 経営規模の拡大に伴い、田植えや稲刈り等の作業の集中を避けるとともに、県奨励品種である「にこまる」、「きぬむすめ」及び「歓喜の風」の品種の栽培に取り組みはじめ、現在地区内の約20%で作付が行われている。
- (2) 農村生活環境の変化について
- ・ 「岩田故郷の会」により、農業用施設の管理に加え地元小学校や地域住民と共に収穫体験やソバ打ち、オリーブの塩漬け、紅花やラベンダー、オリーブによる草木染等、アイデア豊富な手作りのイベントが開催され、地域内、世代間の交流が深まった。

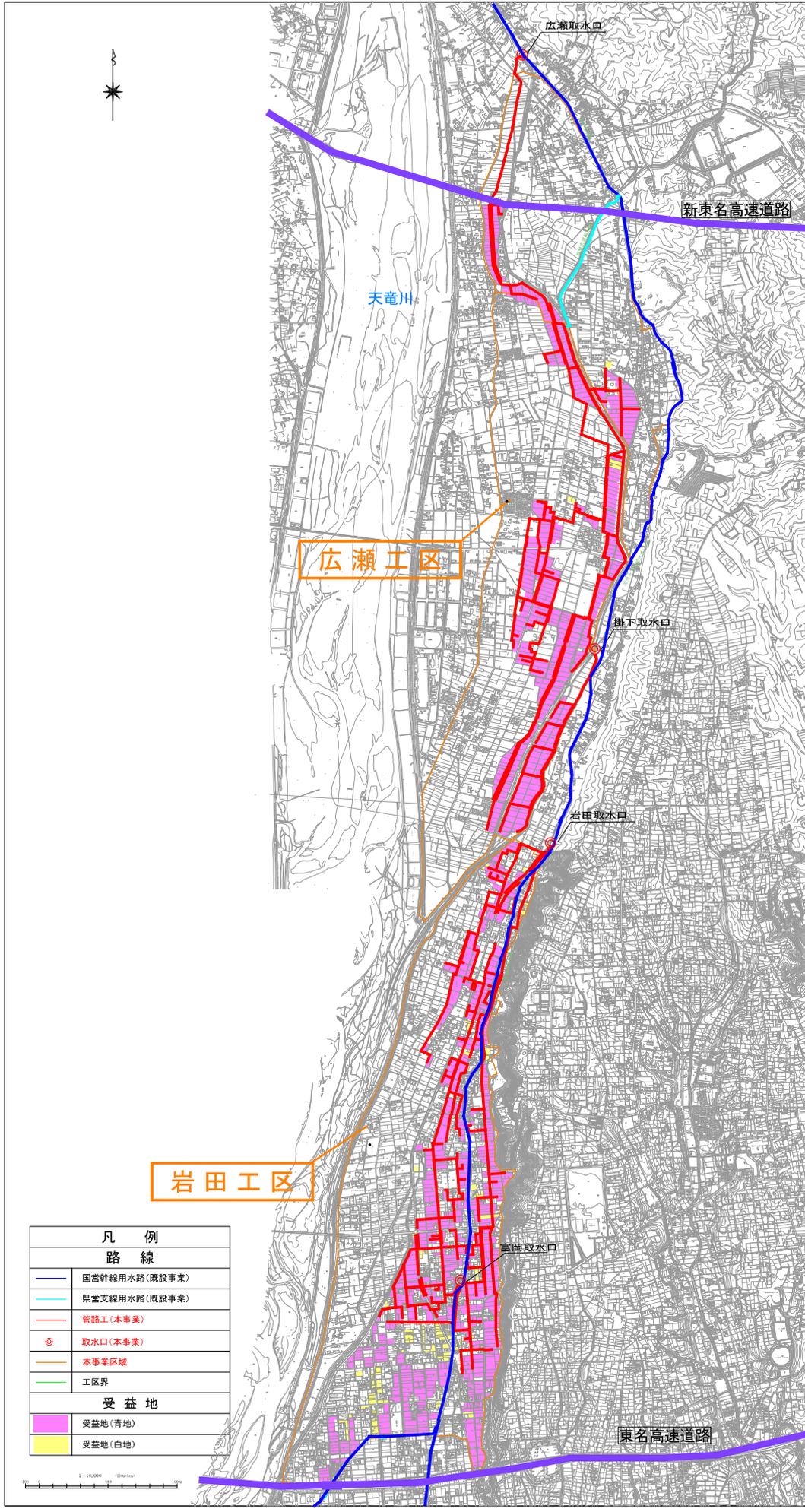
社会経済情勢等の変化

- (1) 地域社会の動向
- ・ 磐田市の販売農家数※は、平成7年の3,356戸から平成27年には1,508戸と55%の減となる一方、経営面積が3.0haを超える販売農家は116戸から187戸に増え、販売農家の12.4%を占めるとともに、経営面積が20haを超える販売農家も20戸を数えている。
※事業着手時：1995農林業センサス／事業完了時：2015農林業センサス
 - ・ キャベツやブロッコリーなどの高収益作物の生産など多様な営農を行う企業的经营体が誕生し、農業算出額の増額に寄与している。(株)パシオスなど3経営体)
 - ・ 農業者の高齢化、後継者不足が懸念されることから、岩田地区では人・農地プランの中で地域の中心となる農業経営体を明確にすることにより、担い手への集積促進に取り組んでいる。
- (2) 地域経済の動向
- ・ 磐田市の農業産出額※は、平成26年の116億円から平成29年には9%増の126億円に伸びている。特に本地区の主な作物である米と野菜は、優良品種を導入しており、それぞれ17%、19%の高い伸びを示している。 ※市町村別農業産出額(推計)平成26年度～
 - ・ 「岩田故郷の会」は、年4回、景観形成のために植栽したソバなどの収穫物を駅前で開催される軽トラ市に出品するとともに、主催する季節のイベントで、収穫した小麦を使ったピザやうどんを提供し、好評を得ている。

対応方針(案)

- (1) 評価結果
- ・ 効果は十分に発現されており、改善措置の必要はない。
 - ・ 用水路の整備により生産量、品質が向上するとともに、営農労力の節減が図られ、地区内及び周辺地域の中心的経営体への農地集積、規模拡大が進み、農業産出額の増に寄与している。
 - ・ 本整備により、多様な営農を行う企業的经营体の参入や、大多数を占める小規模な経営体の農業生産の維持が図られた。
 - ・ 農業者の減少と高齢化が予想される中で、地域の農業・農地を守り、発展するために、人・農地プランの作成を通じ、農地中間管理事業による担い手への農地集積を加速化する必要がある。
 - ・ 担い手農家が管理しやすい施設として、暗渠排水や水田ICT等の省力化技術を導入し、レタス等の高収益作物の作付けを推進し、多様な営農を行う企業的经营体との連携により、更なる農業生産性の向上を図る必要がある。
- (3) 同種事業への反映等
- ・ 本地区は、開水路をパイプライン化することで、生産量や品質の向上と営農労力の節減を図り、地区内の中心的経営体の農地集積が促進され、規模拡大が進んだ。
今後は、天竜川水系の周辺地域においても、本地区をモデル地区として、用水施設の整備を推進するとともに、ほ場の大区画化や暗渠排水の整備、更には水田ICT等の省力化技術を導入し、効率的で効果的な営農による農業生産性の向上を図っていく。

県営かんがい排水事業(一般型) 寺谷上流地区 位置図



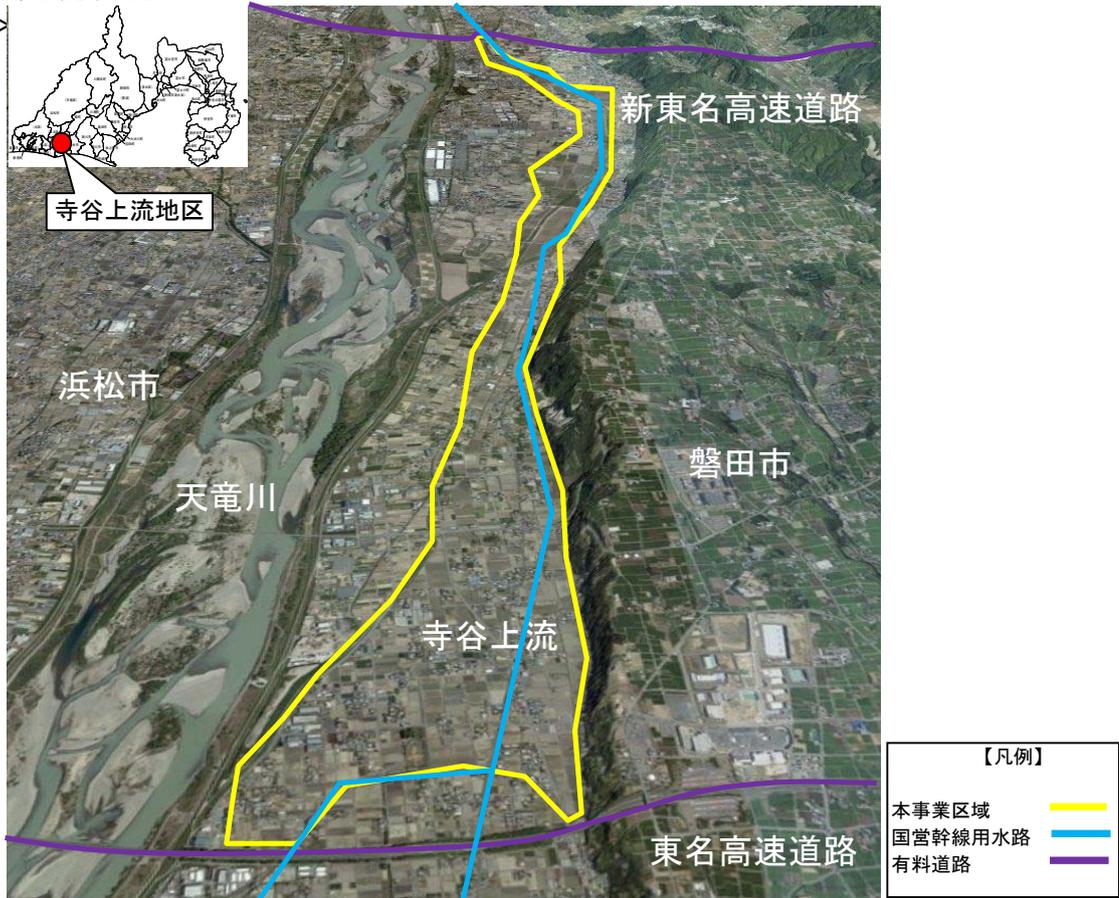
凡 例	
路 線	
	国営幹線用水路(既設事業)
	県営支線用水路(既設事業)
	管路工(本事業)
	取水口(本事業)
	本事業区域
	工区界
受 益 地	
	受益地(青地)
	受益地(白地)

1 : 10,000
0 100 200 300 400 500 600 700 800 900 1000

かんがい排水事業（一般型）寺谷上流地区 事業効果

●事業効果の発現状況

<地区全景>

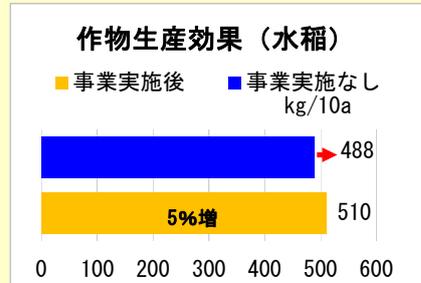


<食料の安定供給の確保に関する効果>

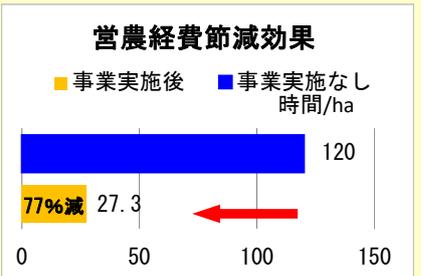
- 作物生産効果／営農経費節減効果
用水路整備に伴う、水管理改良および干害防止、湿潤かんがいによる増収
用水管理に伴う、営農経費の増減



漏水の原因となるひび割れ



生育時に必要な用水量が確保され生産量が向上



パイプライン化により土砂の搬出作業が不要

●事業実施による環境の変化

<農業生産力の強化>

- ・ 用水路の整備により、作物生産性が向上し、大規模水田経営が可能となるとともに多様な営農を行う経営体が誕生した。

○大規模水田経営体による営農等



歩行2条式による田植え

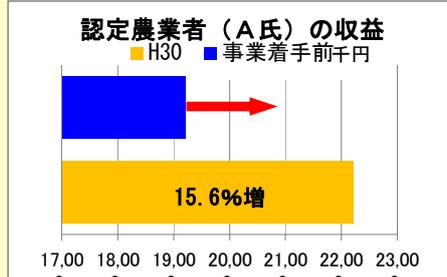
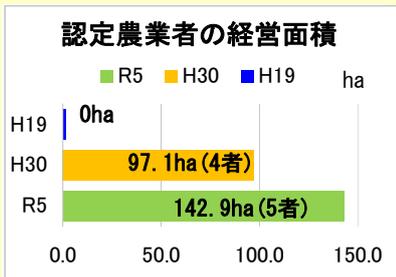


乗用10条式による田植え

大規模経営体地区の参入

- (事例)「土屋ライス」
- ・ 従業員他4人
 - ・ 水稲25ha、露地野菜2ha等
 - ・ H30販売額3千5百万円

○認定農業者の集積及び規模拡大状況等



高収益作物(ニンジン)栽培

<農村生活環境の変化>

- ・ ふじのくに美農里プロジェクト活動組織「岩田故郷の会」の活動



水路の草刈り



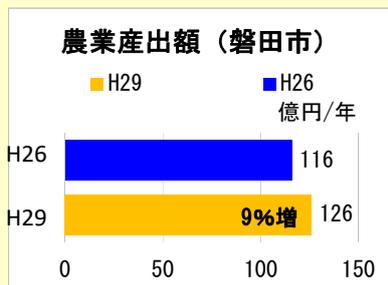
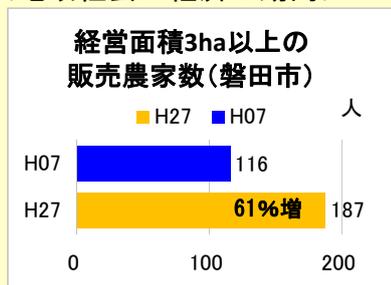
さつまいもの収穫体験



草木染めを行うラベンダー

●社会経済情勢等の変化

<地域社会／経済の動向>



(株)パシオスの営農状況

参照：農林業センサス1995/2015

参照：市町村別農業産出額(推計) ※H26～

- ・ 多様な営農を行う企業的経営体の状況

(株)パシオス

- ・ H21就農
- ・ 従業員他33人
- ・ キャベツ40ha等
- ・ H30販売額: 1億9千万円
- ・ H29中日農業賞
- ・ 農林水産大臣賞受賞

(有)グリーンフィールド・浜松

- ・ H15就農
- ・ 従業員他27人
- ・ ブロッコリー28ha等
- ・ H30販売額1億2千万円

きとう農園

- ・ H28就農
- ・ 従業員数名
- ・ 有機野菜約50種類・
- ・ 惣菜店経営

